

# 合板に適する早生樹テーダマツの選定

研究課題名：カーボンニュートラルの実現に向けた新たな森林経営モデルの開発  
(令和4～6年)

静岡県内に植栽された早生樹の中で、合板用材としてテーダマツを選定しました。テーダマツの苗木は、スギ・ヒノキよりもニホンジカの被害が少ないこともわかりました。

## <試作合板の様子>

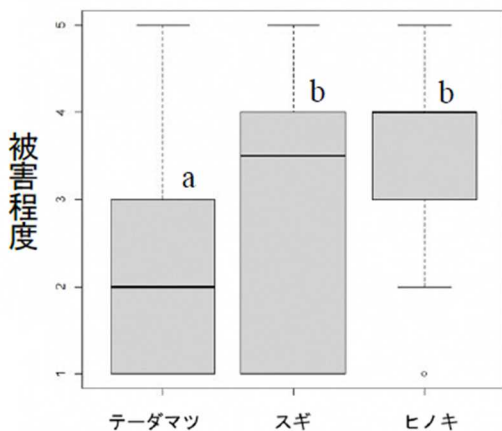


樹種	曲げヤング係数 (GPa)
テーダマツ	5.9
スラッシュマツ	7.8
コウヨウザン	6.8
センベルセコイア	4.5
ヒノキ (比較対照)	6.6

※12mm構造用合板のJAS 2級基準は4.0以上

テーダマツ合板は中日本合板工業組合の試験で、JAS 主要基準をクリア！

※曲げヤング係数とは、木材などの材料が曲げられたときにどれだけのわみにくいかを表す指標



ニホンジカの嗜好性は  
ヒノキ>スギ>テーダマツ

※山田ら (2024) 中部森林研究から引用



ニホンジカの生息密度が10-30頭/km<sup>2</sup>であれば、柵なしでも成長する可能性がある。ただし、通り道周辺は食害が多い。

## <留意点>

- ・ 本成果を活用するにあたり、外来樹種の導入に際しては、逸出や周辺植生への影響など、生態系への配慮が必要です。また、地域の立地条件や管理体制を踏まえた導入を行う必要があります。
- ・ ニホンジカの生息密度が高い場所では、テーダマツでも食害を受けるため、事前に確認するなど注意する必要があります。

【静岡県農林技術研究所 (森林・林業研究センター) 森林育成科】  
TEL : 053-583-3121 e-mail : FFPRI@pref.shizuoka.lg.jp